

令和5年度 第2回山梨県スポーツ推進審議会
会議録

- 1 日 時 令和5年11月28日(火) 午後2時00分～午後3時15分
- 2 場 所 山梨県防災新館3階 301会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 10名
飯田忠子、井出仁、小林幸彦、佐野夢加、鈴木徹、中山哲郎、奈良妙子、吉成純子、小俣義一、菅谷信
 - (2) 事務局
観光文化・スポーツ部次長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課総括課長補佐、スポーツ振興課主幹、スポーツ振興課課長補佐他3名、保健体育課学校体育担当課長補佐
- 4 傍聴者等の数
傍聴者 なし
報道機関 1社
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 次長あいさつ
 - (3) 会長・副会長の選任
 - (4) 会長あいさつ
 - (5) 議 事
 - (6) 閉 会
- 6 議事
[審議事項]
 - ① 山梨県スポーツ推進計画の改定について
【資料1・資料2・資料3・山梨県スポーツ推進計画(素案)】
 - ② その他
- 7 議事の概要
(議長)
審議事項の「山梨県スポーツ振興計画の改定」について、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)
「山梨県スポーツ振興計画の改定」について、資料に基づき説明。

(議長)
事務局の説明が終わったが、内容について、ご意見・ご質問等があればどうぞ。

(委員)
推進計画の38ページ。基本方針のローマ数字4番、競技力の向上について、国民スポーツ大会における天皇杯得点と順位ですが、令和4年度の現況値と令和8年度の目標値があるが、令和4年度は816.5点の33位。スポーツ協会も、県の方針と合わせ、900点、20

位台という目標を掲げている。差し支えなければ、令和8年の〇点〇位台というところの考えを聞かせていただきたい。

また、成長産業化の取り組みについて、今回の計画の中でもスポーツエンジン、スポーツツーリズムということが記載をされている。令和6年度以降のスポーツの成長産業化についての考えを聞かせていただきたい。

(事務局)

まず1点目の競技力向上について、国民スポーツ大会における天皇杯の得点と順位は、これまでは900点20位台という形で目標値の方を設定させていただいた。今回〇になっているのは、スポーツ協会に競技力対策向上本部というものがあり、目標については、協議しながら考えていこうと考えている。

2点目の山梨スポーツエンジンについても、計画期間が切れているので、また新たなものを作るという方向で考えている。スポーツエンジンの一つの使命として、スポーツで稼いでいくということもあるので、それらも踏まえながら策定してこうと考えている。

(委員)

基本理念の部分で、「する・みる・ささえる」に対して、他県の事例を教えていただきたい。

また、19ページの新たな三つの視点で、作る・育む等があるが、「する・みる・ささえる」の部分で山梨らしさをもっと押し出したほうがよいと思うが、意見を伺いたい。

(事務局)

他県の状況は、例えば、岡山県では同じように「する・みる・ささえる」という形で出している。調べたところでは概ね、「する・みる・ささえる」というものをベースにしているところが多い。国の計画を基本として、「する・みる・ささえる」ということがまずあり、それにプラスで今回新たに、作る・育むといった三つの視点を加えた。大元の基本は、これまで通り「する・みる・ささえる」という柱で考えていきたい。

(委員)

部活動改革の推進について、具体的なことが書きにくい状況にあると思うが、県のスポーツ振興という全体的な視野に立ったときに、これだけ孤立してしまうようなことがないようにお願いしたい。

また、部活動改革を推進していく上で大事なことは、地域との繋がりが絶対的に必要になってくると考える。学校だけではなく、地域の指導者や各市町村に大きなバックアップをしていただかないと進まないと思うので、上手い言葉が使われるといいなと感じている。

(事務局)

中学校では少子化の影響で、自分のやりたいスポーツができない、中学校単体ではチームが組めない等といった現状がある。県のスポーツ全体という視点から、子供たちのニーズに合わせ、自分たちでやりたいことができ、それにより成長し、ゆくゆくは国や地域で活躍できる人材となれるように、部活動改革という名前でここに載せてある。地域で丸ごと行っていないとできないものなので、そういったことがイメージできるような形で取り込めればと考えている。

(委員)

山梨県のスポーツ振興計画の素案を見させていただいたが、素晴らしい内容で、かなり幅広く網羅されてるものと感じた。特に意見や質問はないが、この会議に出席をしながら勉強させてもらいたいと感じた。

(委員)

部活動の移行について、実際の取組からでてきた現場の意見を反映していただきたい。

小さい子供は、自分からいろんなイベントに参加することは難しく、親が連れて行ってくれないと参加ができない。誰もが、いつでもどこでもというニュアンスを考慮すると、指導者が移動していき、活動を広げていくことがすごくいいと思う。そういった活動を推進し、いろいろな形で子供たちが運動に触れる機会をつくっていただきたい。また、子供達がスポーツを行っていく中で、途中で嫌いになることなく、長く続けてもらえるような活動をしていけたらと思う。

(事務局)

県では小学生5・6年生を対象に、各スポーツに対する適性を早く見極めることを支援する事業を行っている。9年後の国スポを見据えると、もう少し年齢を下げて、早い段階から可能性を見出せるような事業をもっと研究していきたいと考えている。

また、スポーツは、アスリートという高い目標もあれば、中には人間形成にすごく効果があるというところの観点もある。そんなことも含め、教育委員会ともいろいろ研究を進めていきたいと思っている。

(委員)

スポーツ協会として、競技力向上という大きな目標はあるが、県が行っている「甲斐人の一撃」で来られているジュニアアスリートの育成というのは、将来的に国スポに対する特定のターゲットに絞ってしまう可能性があるかもしれないが、子供たちのいろいろなスポーツに関する可能性を見極め、また、その子供たちの背中を見ながら、次の世代の子供たちが育つという側面もある。スポーツ協会もそういった好循環を支えていけるよう、いろいろ協力させていただきたいと思っている。

(委員)

一般の方は、スポーツ推進計画について知らないの、こういう活動をメディアを通して知ってもらうということがすごく必要だと考える。こんな楽しいスポーツがあるとか、フェスティバルがあるとか、子供がもっともっと楽しい機会が設けられたりとか、或いはアスリートを目指すためにはこういう「甲斐人の一撃」とか、そういうものもあるというようなことをもっと発信できたらよいと感じた。

(委員)

山梨スポーツエンジンについて、まだできて2年目だが、南アルプスのイベントはスポーツ振興賞という表彰をいただき、際立った取組だったと思っている。1年、365日のうちの1日だけ開放するというのは、これは最初の一步だと思うが、今後これをある程度、複数回設定等の工夫をするなど、体制整備が必要かなと思う。トンネルを自転車で行くといった、普段体験できないようなことを実現するための手段としてスポーツを使っていると思う。山梨スポーツエンジンのような県のスポーツコミッションは、官民連携で作った組織ということで、今47都道府県の中でも、半分ぐらいできている。

山梨県は首都圏に近く、大きなマーケットが控えている。富士五湖周辺でのイベントはかなり多い状態だが、まだまだ開発できる余地がある。基本方針に、地域活性化を担う人材育成という項目を加えていただいたが、スポーツ庁もスポーツコミッションという制度は作ったが、各コミッションの運営の内実は非常に厳しい部分がある。稼ぐ方策は何なのかということも議論なしにとりあえず稼ぐという話が出てきているので、何か新しいモデルを作っていくかという点も駄目かと思う。お題目が出てくるのはいいが、それをどう実行計画に移すかということが非常に大事かと思っている。

(事務局)

スポーツで地域が潤うという考え方は知事が非常に力を入れたいという分野である。スポーツはアスリートが活躍し、夢と希望や勇気を与えるという非常に素晴らしい側面もあるが、一方でスポーツビジネスといった側面もある。人を集客するイベントというと、走るか自転車になってしまう。それ以外に何か面白いことができないかということは今、研究しているところ。今後の展開も考えながら、収益性を高めるような取り組みを進めていきたいと考えている。

(委員)

全スポも国スポと一緒に開催されるわけだが、今のところそれに向けて、団体種目も、7種目7団体がまだ完全にチームができていない状況。それまでには何とかしなきゃいけないと考えている。

パラスポーツは、健常者も障害者も共にできるスポーツなので、それに関わってもらいたい。

県の社会福祉協議会において話があったが、ひきこもりや外に出られない障害を持った方たちに対して、福祉協会の方からeスポーツの道具を貸し出して、eスポーツに参加してもらうことで意欲的になってもらい、それがだんだんパラスポーツの方に向けてもらいたいのかと思う。

障害者が車椅子でなかなか外に出られない、移動手段がない、バスを利用してもそこか

ら会場まで介護タクシーを使うにしても、お金がかかってしまう。そういうことで、外出することに対し二の足を踏んでいる障害者もいる。障害者の中には、すごく意欲的でスポーツ全般に向かって頑張ってみたいって方もいるが、なかなか練習する場所がない。地域の総合型スポーツクラブや、地域の体育館などが身近で行きやすい場所なのでそういうところを有効に使う。

他にも、小瀬のトレーニングルームなどで訓練したり、いろいろ体力を増進しようと思っている障害者の方たちも結構いる。そういう方たちに、色々なスポーツを紹介するなど、背中を押すような支える力、そういうものが必要になってくると思う。まだまだ障害者に対し、近寄り難く思っている方達もいるが、今年10月にフェスティバルをやった時には、多くの方たちが障害者と一緒に活動していただいた。パラスポーツを知り、健常者も障害者も共に楽しく活動できたというアンケートもいただいた。地域でぜひやりたいと考えているがサポートしてもらえない。地域の社会福祉協議会などに関わってもらい、障害者がパラスポーツに積極的に参加できるような雰囲気作りをしていきたい。また、全スポに向けても、より多くの障害者が活躍できる場所が欲しいと思っている。

(委員)

バリアフリー化をして、気楽に障害者がいつでもどこでも活躍できるような、そういう場を推進していければと思う。

(委員)

オリパラがあって、山梨県の方々もパラスポーツの理解や障害の理解が進んではいると思う。ただ、障害者がいざスポーツをするに至って、場所が使えなかったりすることがある。例えば、車椅子を使うと体育館に傷がついてしまうとかがある。でも沖縄に行くと、陸上競技場は基本無料で障害者が使えるようになっている。

障害者スポーツセンターも、大体各県に一つ二つぐらいあり、障害者手帳があると、介助さんも1人入れる。他に健常の方、例えば親が行って友達が行くとなったりすると、そこで障害者の理解が深まったりすることもできる。ぜひここで、そういうことをしてもらいたい。

学生の方々も、オリパラ教育で教科書を使った勉強はしたと思うが、実際、障害者を前にした瞬間になにもできないってことが起きる。それは接していないからだと思うので、オリパラは終わったが、障害者スポーツ協会にはボッチャセット等いろんなセットがあるので、学校と地域と県と連携しながら、子供だけでなく大人も障害者と触れあってほしい。

今は支援学級もあるし、聾学校とか盲学校と交流もしているので、子供より大人の方が知らないことが多い。大人の方向けのイベントをなるべく多く出して行って、親子で会話をする機会を増やしていただけたらいいと思っている。

(議長)

連携・協働の社会の中で、地域に寄り添っていく人たちがたくさんいるので、そういう人達を原点にし、競技力向上につなげていくという、そういう観点をこの委員の皆さまと一緒にこれからも考えていければと思っている。皆さまからも施策についてご意見いただけるので、今日はそれを県がまとめたものを皆さんと確認をして、さらにいい施策を県の方で出していただくようお願いしたいと思っている。

(以上)